



小島日記

共六

東京大学図書

東京大学図書

入選 13  
1.664  
64



1664  
6

正

山津伊

申改

子為日本織成之乃六日錄

児嶋

郷賢文庫

好文堂

一 終身と神香燭に焼  
終身と神香燭に焼  
終身と神香燭に焼  
終身と神香燭に焼

二 延命の神人周る牛  
延命の神人周る牛  
延命の神人周る牛  
延命の神人周る牛

三 神の霊と月  
神の霊と月  
神の霊と月  
神の霊と月

四 一と一夜枕替えて夢  
一と一夜枕替えて夢  
一と一夜枕替えて夢  
一と一夜枕替えて夢

日本織成

又 作り獅子は毒れり入

多のり食らる獅子を中乃  
見せぬ増く師匠八た麻

六 夜も花柳を不約と成る魚

この魚をこまをれ絶入極く  
薩橋の不思後よ達て梅余ハ

七 鉄炮馬相賣れり的

鐵田がそり此不云云於た  
神田に相賣らばそり

八 情ひり大原河原風流

情ひりこり小馬相賣  
牛馬とのりゆり相礼

子守日本織巻之六

終よ身代神香行れ一様



笑



ゆらば院そそそげく塊ハ身をもむらんの界  
やうらうらうたはるるこのこりけさ郎権のさ  
はにれりこの被るはよ郎をもむらんの界  
やうらうらうたはるるあうさ由母の身よそくハは  
まがの所らうらうらうらうらうらうらうらうら  
さうせを冊おしひひひひひひひひひひひひひひ  
たりひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
ぬさ移んしつものハはははははははははははははは  
とるさのらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

日本

三











あつねがらびとあそびしやなげしりひだつり  
くものうらみで四海よりせほお母らびや  
えりもきと思てきづぬまよおれくわさげに  
そのかの娘君の心れの人い戯えんそつ  
はるるをまつてわてのうらやかき母  
まうにえりけ休まらうとまらりく  
くはあまのをさあいのうらまはし  
むらんよほえんまつりやめやう  
うしれしやこの思ふうらつそ  
うら一ほあししほる屋か  
入てまは生れしんあうどい  
いこら

いこらよつりこつとれしドけなれど  
くつづけんあうらつそなをる  
あつしよまかの娘君の心れの人  
あまらんまづあおまらる  
名所のうらくく  
けき屋か  
うら  
しこ  
編編  
い  
に



かくもよそとらび落や一ころのやまがもよそとらび  
 うけそりおし一そえのしをさそひてつらうとてさ  
 くつさちきららるる名もあまのなまじちをさけ  
 あひ人のちをけり痛放移まなわがのりつらとて  
 ひやくとち怒りてつらあやうとてさほまうつらあや  
 つらさざんのころがふらのころそつらあやうつらあ  
 ひうめぬられぬころりばなそくちのあまことそら  
 けり

社のおげたての月

一ぶひや文せしとてさほのたうにうれそとてさ  
 まのさうらうとてさほおとてつらあやうとてさ  
 けり

一かきもくちうらうらうとてさほのたうにうれそとてさ  
 ちひらうとてさほおとてつらあやうとてさほおとて  
 んとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 やとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 れのちとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 みとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 まとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 らとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 んとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 だとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら  
 らとてさほおとてつらあやうとてさほおとてつら

あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし  
あつて申すべしとてつてしりし

にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし  
にてひくわおやとてつてしりし

日本書紀

けしきありてあんないせしはあやの人もおぼろしく  
 子にふれむとびけしとくくく一悲びてとて思ひて  
 かなあゆくさくさあやとて思ひてとて思ひて  
 づいあそやとて思ひてとて思ひてとて思ひて  
 こそ紙のうらなは思ひて思ひて思ひて思ひて  
 まよのねとめあてとて思ひて思ひて思ひて思ひて  
 がしきとめとて思ひて思ひて思ひて思ひて  
 てあつとて思ひて思ひて思ひて思ひて  
 まつとて思ひて思ひて思ひて思ひて  
 けしきありて思ひて思ひて思ひて思ひて  
 思ひて思ひて思ひて思ひて思ひて思ひて



つれづれといさうあはれなくはるまじきあはれとてさしつか  
へてさうさういふにまじきせれうとてさうさう  
きうさうさういふねんねんねんねんねんねんねんねんねんねん  
そさうさういふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさう  
いふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさういふとて  
さうさういふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさういふ

### 一生一夜の花菱とて夢

つれづれといさうあはれなくはるまじきあはれとてさしつか  
へてさうさういふにまじきせれうとてさうさう  
きうさうさういふねんねんねんねんねんねんねんねんねんねん  
そさうさういふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさう  
いふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさういふとて  
さうさういふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさういふ

つれづれといさうあはれなくはるまじきあはれとてさしつか  
へてさうさういふにまじきせれうとてさうさう  
きうさうさういふねんねんねんねんねんねんねんねんねんねん  
そさうさういふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさう  
いふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさういふとて  
さうさういふとてさうさういふとてさうさういふとてさうさういふ









とそんぞうとて安住しよとてひし  
かんてせしをを獅子殿らぐん  
川に流れてゆく事ありて  
事かられりし脚をを  
のぐるをさそりてに  
修まつてそりて  
あきしとて  
つげんと  
船よかり  
るく  
情の

とそんぞうとて安住しよとてひし  
かんてせしをを獅子殿らぐん  
川に流れてゆく事ありて  
事かられりし脚をを  
のぐるをさそりてに  
修まつてそりて  
あきしとて  
つげんと  
船よかり  
るく  
情の



諸將を以て押賣れぬ

はる方御之向ふことその向を頼る所の中の人れゆ  
事一はる男強固又かそそ勇力もどかたあし  
いつともあまきあひのしにたつことよ加く年をとればま  
ひらげらるる御怒るる之ともぬも人のねあてむ  
まことあまきあひのしにたつことよ加く年をとればま  
にあひ十人よ九人あまきあひのしにたつことよ加く年  
あひあまきあひのしにたつことよ加く年をとればま  
又八つひのしにたつことよ加く年をとればま  
新後をたつことよ加く年をとればま  
とあつことよ加く年をとればま



その方には合ふにあらうし初とてくそがく  
 ちやれけいびびごせんしつらうこれぬも人も  
 へんくくしうあづさおとさうくおぐらぬ  
 わつこれ男やうちあのか神神紐百千人所男道  
 平八人ゆふは房押所十番でくゆくちまて  
 つらうとせうころの人のせむおおんあむあやハ  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく

おもてあつてつてつてつてつてつてつてつて  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく  
 ちうひのせむくあくくせむら極品たふあうし年  
 長つらうひぬと振のほそ地でくくくくくくく







日本書紀







寶永四丁亥歲

初穂吉辰

花語書林

井筒屋治之丞

栢 巨勲堂

用板

いぬるる利田本書の梓よちり  
もむ教事一覽表の中よ世に流る栢  
少納る栢子清の字に治友の  
拾遺是等の書に婦人歌代本あり  
そやすくおしるるに友より花  
語の徳士湖十の友に集むる六生  
そふ浅香山の溪より深るる十の友に集むる

ひたつこのそのの藤が分る終六の春  
とせり誦よ勸長徹悪の二助とむむ  
うと強て橋よと水とせよ廣むる乃  
とより

寶永三

丁亥年

起牛後

好文堂

